

第89回 記者懇談会実施概要

- 1 日時 2013年4月26日(金) 15:00~17:00
2 場所 関西大学千里山キャンパス 校友・父母会館 グランドフロア会議室
3 内容

(1) 研究発表・質疑応答(15:00~16:00)

・横田直和 法学部教授

発表テーマ「経済法の解釈における経済学の活用」

・安芸重雄 システム理工学部教授

発表テーマ「不規則性を調べる 統計的分布論からのアプローチ」

(2) 学内状況説明・情報交換(16:00~17:00)

本学教授の論文誌採択について

資料1

本学法科大学院の教育体制などの改革について

平成25年度年史資料展示室企画展の開催について

資料2

平成25年度関西大学おおさか文化セミナーの開催について

資料3

平成24年度学生生活実態調査報告書の発行について

資料4

文化・学術活動等奨励金制度【企画部門】の募集について

資料5

全関西ノービス競技大会兼全国有望新人発掘合宿派遣選考会

(旧氷の甲子園)の開催について

資料6

関西学生野球連盟春季リーグ「関関戦」生中継について

資料7

平成25年度教育後援会総会・学部別教育懇談会の開催について

資料8

吹田市地域防災総合訓練の実施について

資料9

関大生の活躍について

資料10

4 大学側出席者

楠見晴重学長、黒田勇副学長、西村枝美学長補佐、
横田直和法学部教授、安芸重雄システム理工学部教授、
仲川勇二総合情報学部教授、藤本清高総合企画室長兼広報室長、
中川雄弘広報課長、宮武明生学長課長 他

5 参考資料

- (1) 学校法人関西大学総合案内2013
(2) 関西大学通信 第421号、第422号
(3) 関西大学環境報告書データブック2012
(4) なにわユーモア画譜~関西大学所蔵大坂画壇コレクションを中心に~ チラシ
(5) 関大スポーツ SEASON SCHEDULE [2013 SPRING-SUMMER]
(6) 行事予定表(5月~6月)

以上

【研究の概要】

経済法とは市場メカニズムの機能を制限ないし阻害する企業の行動を規制する法律であり、独占禁止法がその中心となっている。

経済が国際化し、世界各国が市場メカニズムによる企業活動の規律を基調とする経済運営を行うようになり、競争制限的な行為を厳しく規制するようになったことから、国際的に事業活動を展開している企業にあっては、独占禁止法は民商法に次ぐ重要な法律となっている。

独占禁止法は、諸法の中でも難解な法律といわれてきたが、その理由としては、

その違法性基準が「一定の取引分野における競争の実質的制限」とか「公正な競争を阻害するおそれ」といった抽象的なものであること

企業の具体的な行為がこの違法性基準に該当するか否かを判断する際に、経済学やビジネス慣行を含む経済実態に関する知識が必要となること
がある。

この「一定の取引分野における競争の実質的制限」における「一定の取引分野」が経済学でいう「市場」であると解されており、企業の具体的な行為が市場競争に及ぼす影響を分析するのが経済学であるので、競争を制限ないし阻害する企業の行為を独占禁止法で評価するには、
のような知識を踏まえ検討を行う必要がある。

独占禁止法上の問題を検討する際に必要なこれらの知識の内容はそれほど高度なものではないが、一般の法律関係者がこれらの知識を修得して活用することは必ずしも容易ではない。

このため、経済学を学び、公正取引委員会における実務経験を踏まえて、独占禁止法の解釈・適用につき一般の法律関係者にも理解できる論理を提供できるように努めており、このような観点から、経済学的な考察を中心として執筆した経済法ないし競争政策関係論文として、次のようなものがある。

- 独占禁止法の解釈・運用における経済学の利用例 ダクティル鑄鉄管シェアカルテル課徴金事件に即して（NBL・2013年6月1日号掲載予定）
- 保険会社が提供する役務と保険金の支払についての一考察 機械保険課徴金事件東京高裁判決を素材として（2005年）
- 戸建注文住宅における価格形成と情報の非対称性 「住宅の品質確保の促進等に関する法律」がもたらした変化（2005年）

【プロフィール】

1953年生、大阪市出身。関西大学法学部教授。専門は経済法、競争政策。京都大学農学部農林経済学科卒業、公正取引委員会事務総局（景品表示監視課長、企業取引課長、審査局管理企画課長、審査管理官、近畿中国四国事務所長など）、名城大学法学部教授を経て、2010年4月から現職。社会的な活動としては、近畿中部防衛局入札監視委員会委員、近畿中国森林管理局綱紀保持委員会委員、大阪市水道局入札契約に関する有識者会議座長など。

不規則性を調べる 統計的分布論からのアプローチ

関西大学システム理工学部数学科

数理統計学研究室 安芸重雄

<http://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~aki/>

【概要】

離散パターンに関する統計的分布論は 18 世紀に活躍した数学者ド・モアブルらの研究に始まる長い歴史をもっている。この分野が 1980 年代から急速に発展した背景には、品質管理、機械の起動試験(start-up demonstration test)、連続システム(consecutive system)の信頼性の問題、レーダー探査の問題、分子生物学などの多様な応用分野において「離散パターン」についての確率の計算が必要になったことと、ちょうどそのころから実用化され始めた「計算機における数式処理システム」の存在がある。

強力な数式処理能力をもつコンピュータは数理統計学の一分野である統計的分布論にも多大な影響を与えることになった。ただし、コンピュータの力をうまく活用して理論的な結果を導くことに成功するまでには、それから 10 年以上の時間を要した。というのは、コンピュータの数式処理能力を過信して闇雲にコンピュータに数式を入力しても、メモリー不足などの原因ですぐに止まってしまうのである。もちろん、紙と鉛筆だけで理論的な結果を導いてきた手計算の技術をコンピュータのスケールで生かして行くには、「マルコフ連鎖埋め込み法」や「条件付き確率母関数法」などの新しい理論が必要であった。たとえば言う、「問題」があったとき、人が「方程式」を立てて、コンピュータに方程式を入力すると「答え」を出してくれるような状況を想像するかも知れないが、実はそうではない。「問題」を入力すると、人間では入力することが困難なほど膨大な方程式をコンピュータが立てて、それを解いて「答え」を返すイメージなのである。そのためにはコンピュータに方程式を立てさせるための新しい理論が必要だったわけである。その基礎になっているのは「数学」である。

ここでは、不規則な現象を解析するための数理統計学とその基礎になっている「数学」の紹介をしながら、さまざまな依存性をもった多変量系列やグラフィカルモデルと呼ばれるランダムな構造の上で離散パターンに関する厳密な確率を求めるための研究の一端について説明する。

【プロフィール】

1953 年大阪府生まれ。関西大学システム理工学部教授。大阪大学理学部数学科卒業、大阪大学大学院基礎工学研究科前期課程修了。文部省統計数理研究所研究員、千葉大学経済学助教授、大阪大学基礎工学部助教授を経て 2003 年 9 月より現職。工学博士。専門は、数理統計学。とくに、統計的分布論と統計的推測理論を中心に研究。最近の主要な研究テーマは「不規則な構造上の離散パターンに関する統計的推測」。理論的な研究が中心であるが、計算機を使った数式処理や統計的シミュレーションなども研究に欠かせない道具になっている。所属学会は日本数学会、日本統計学会、International Statistical Institute など。